

平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 東京大学

目 的

【URAを活用した部局の中長期的な研究戦略機能の強化】

研究活動の盛んな部局を中心に、**研究企画部門**を設置し**URA**を配置することで、部局の研究力の底上げを図る

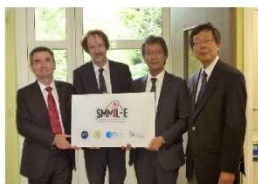
【世界と競争していくための人件費制度の抜本的改革】

積極的に**若手研究者の支援**を行い、人事制度改革を含めた新陳代謝の活性化を図る

これまでの実績・進捗状況

- ・8つの部局に研究企画部門を設置し、URAを中心として部局の研究力強化を促進
- ・本部にリサーチ・アドミニストレーター推進室を設置し、URAの学内定着に向け議論
- ・世界的な学術雑誌や海外向けニュースサイトでのアウトリーチ活動により、国際的な広報活動の活性化
- ・「教授（特例）」や総長裁量ポストを活用し、若手や女性の研究者を積極的に支援
- ・論文執筆ワークショップの実施等により、論文の被引用数の増加

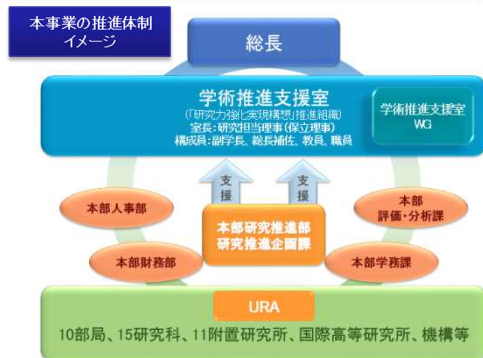
本事業による 活動実績例



1 仏リール市に日仏共同研究拠点SMMIL-Eを設置
(平成25年度～)



1 英語論文ワークショップの様子 (平成26年度実施)



今後の課題と展望

- ・卓越した若手研究者の育成を促進し、民間企業を含めた学外の各機関と連携して独創的な研究を強力に支援する
- ・総長のリーダーシップのもと、URA推進室と連携しながら優れた知識や能力を有するURAを引き続き確保していく
- ・論文分析ツール等で本学の強み弱みを分析し、実効策を模索していく
- ・若手研究者支援や男女共同参画の促進により、構成員の多様性を拡大していく

フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 本部の URA 推進室が各部局の研究支援組織への働き掛けを丹念に行い、制度の定着・人材育成・研修などの取組により、効率的な研究費管理、国際共同研究支援などを推進する体制を整備している。また、学内広報を通じ、全学の課題として捉え、URA 制度の定着化を進めており、制度全体の設計には、未だ時間を要するが、順調に進んでいる状況が確認された。

特に優れた点

- 若手研究者の増加に向けて「教授（特例）ポスト」、「クロスアポイントメント」、「スプリットアポイントメント」等を活用し、安定した雇用環境を生み出すための取組が整備されている。
- 研究支援力底上げのための URA 業務研修を含め、質の向上のための充実した取組が実施されている。

期待する点

- URA 制度全体の設計・本格実施に向けて、早期の実現を大いに期待したい。